

地域再生計画（地方創生汚水処理施設整備推進交付金）中間評価調査

都道府県名	三重県	事業実施主体	伊賀市	地域再生計画名	自然豊かで魅力溢れ、歴史彩る秘蔵の国「いが」の環境保全計画
計画期間	令和4年度～令和8年度	評価責任者	伊賀市上下水道部長 上窪 英男		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	地域再生計画の目標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価	
	目標	内容	基準年度	年度	中間実績	基準年度	年度	最終実績		指標総数	達成数		
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	目標1	汚水処理施設の整備の促進 汚水処理人口普及率3.0%の向上	83.0%	R2	84.6%	R6	84.6%	86.0%	R8	○	4	3	個人設置型浄化槽の計画整備数に満たなかったものの、結果的に目標を達成した。
	目標2	農業集落排水施設の維持管理コストの削減 統廃合処理区の維持管理費	31,130千円	R2	31,130千円	R6	27,194千円	27,997千円	R8	○	4	3	処理区域内における機器修繕が大幅に減少したことにより、結果的に目標を達成した。
	目標3	認定農業者数の増加	217人	R2	240人	R6	218人	244人	R8	×	/		高齢の認定農業者が認定農業者の更新をしないという課題がある一方で、果樹や葉物等を育てるために移住者を含めた若年層の就農者が新たに認定農業者として登録したことで、結果として横這いとなっているが、目標の達成には至らなかった。
	目標4	移住者の増加	94人/年	R2	273人(累計)	R6	276人(累計)	460人(累計)	R8	○			SNSを活用した認知度の向上や体験型の移住セミナーが好評を得ている。また、移住コンシェルジュの設置や移住施策が一定の評価を得ており、移住候補地として選ばれたことから目標値を達成した。
②事業の進捗状況	事業名			整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価						
特別措置を適用して行う事業	通報装置の更新（クラウド化）		465箇所	348箇所	466箇所	当初計画以上の進捗が図れており、今後も計画に則した整備を進めていく。							
	中継ポンプ更新		17箇所	15箇所	15箇所	予定している中継ポンプの更新はすべて完了した。							
	処理場の統廃合		1処理区	—	1処理区	当初計画に対し、事業費から見る進捗率は約57%と概ね計画どおりの進捗が図れており、今後も計画に則した整備を進めていく。							
	浄化槽（個人設置型）		1,100基	435基	846基	合併処理浄化槽の設置を希望する個人からの申請が想定よりも少なく、整備目標を3割以上も下回る状況であるため、浄化槽の普及促進のため継続的に啓発活動を実施する。							
その他の事業	移住の促進		移住相談会や移住プロモーションの実施		伊賀市認知度UPのため、SNSへの投稿回数を増やすとともにSNSを活用した投稿イベントを実施し、フォロワー数がR5年度の2倍程度に増加した。また、体験型の移住セミナーを従来の年1回から年3回に増やし、NHKの番組で取り上げられ、アンケート結果からも好評を得ている。移住コンシェルジュの設置や移住施策が一定の評価を得ており、移住候補地として選ばれている。								
	定住の促進		伊賀流「空き家バンク制度」		当該制度について、SNS等で発信を行うとともに、HPをリニューアルし、空き家で困っている方が設問に答えていくことで解決のヒントを得られるコンテンツを新たに公開した。また、空き家バンクHPでのオンライン内覧について、従来よりも見やすく魅力的なルームツアー動画を公開し、利用者から好評を得ている。								
	農産物のブランド化		伊賀米うまい米コンテストの開催		伊賀米生産農家の意識高揚と味の底上げ及び消費者への情報発信を目的として、伊賀米振興協議会が主催し毎年開催している。								
計画外で独自に実施した事業													
③評価方法	伊賀市総合計画審議会条例に定める伊賀市総合計画審議会により評価を行った。												
④中間評価の公表方法	伊賀市ホームページの下水道コンテンツに掲載												
⑤計画全体の総合評価	本地域再生計画では、汚水処理施設整備推進交付金を活用し農業集落排水施設の機器類の更新、さらに遠隔監視システムのクラウド化を実施することで、災害時の迅速な対応が可能となり、併せて農業集落排水処理施設の統廃合により維持管理コストの削減を図ること、また、災害に強い浄化槽を整備することにより汚水処理人口普及率の向上を図ることを目的としている。 なお、目標1の汚水処理人口普及率3.0%の向上については、浄化槽の整備基数が伸びていないため最終目標値への達成が困難と考えられるが、少しでも目標値に近づけられるよう継続的に啓発活動を実施し、地域再生計画の事業展開を図っていくものである。												
⑥今後の方針等	中間評価結果の反映状況					有りの場合その具体的内容							
	地域再生計画の見直し（ <input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無） 令和7年度予算要望額への反映（ <input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無） 有りの場合の増減額 千円					「伊賀市夢のある農業振興計画」を新たに策定し、大規模農業者への支援だけでなく小規模農業者への支援を図り、認定農業者の確保に努める。計画上の農業集落排水施設の整備事業量、事業費に乖離が生じてきているため、地域再生計画の軽微な変更を行う。							
⑦今後の方針等に対する対応	●農業集落排水施設の整備事業量、事業費の見直し ・整備事業量 認定時 通報装置の更新465箇所、中継ポンプの更新17箇所 → 見直し後 通報装置の更新466箇所 [1箇所増]、中継ポンプの更新15箇所 [2箇所減] ・総事業費 認定時 714,900千円 → 見直し後 824,552千円 [109,652千円(うち交付金34,101千円)増]												